

DERWENT- 1999-039740

ACC-NO:

DERWENT- 199904

WEEK:

*COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD*

**TITLE:** Stamp holder - has lock mechanism provided between outer and inner cylinder to obstruct downward movement of outer and second inner cylinders to first inner cylinder

**PATENT-ASSIGNEE:** MITSUBISHI PENCIL CO LTD[MISP]

**PRIORITY-DATA:** 1997JP-0121755 (April 24, 1997)

**PATENT-FAMILY:**

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
JP 10297072	ANovember 10, 1998	N/A	005	B41K 001/58

**APPLICATION-DATA:**

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO	APPL-DATE
JP 10297072A	N/A	1997JP-0121755	April 24, 1997

**INT-CL (IPC):** B41K001/58

**ABSTRACTED-PUB-NO:** JP 10297072A

**BASIC-ABSTRACT:**

The holder includes a vertically movable outer cylinder (1) which covers the outer side of the inner cylinder (2). Another inner cylinder (7) which holds the stamp is distributed to the inner side of the inner cylinder. A lid (4), which opens and closes window hole (3) that opens at lower end side of the inner cylinder, is installed on the same side of the inner cylinder.

The lid is interlocked to the vertical motion of the outer cylinder and is made to face the printing surface of the stamp mounted to the inner cylinder when assuming a closing state. The lower side of the printing surface is exposed when the lid assumes an open state. A cinnabar seal ink plate (16) makes the printing surface protrude from the lower end opening of the inner cylinder. A lock mechanism (17), provided between the inner and outer cylinder, obstructs the downward movement of the outer and the second inner cylinders to the first inner cylinder.

ADVANTAGE - Obstructs downward movement of outer cylinder even if external force joins outer cylinder to prevent printing surface from being exposed and from accumulating dirt.

**CHOSEN-** Dwg.3/6

**DRAWING:**

**TITLE-** STAMP HOLD LOCK MECHANISM OUTER INNER CYLINDER OBSTRUCT

**TERMS:** DOWN MOVEMENT OUTER SECOND INNER CYLINDER FIRST INNER CYLINDER

**DERWENT-CLASS:** P75

**SECONDARY-ACC-NO:**

**Non-CPI Secondary Accession Numbers:** N1999-030087

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-297072

(43)公開日 平成10年(1998)11月10日

(51)Int.Cl.<sup>8</sup>  
B 4 1 K 1/58

識別記号

F I  
B 4 1 K 1/58

L

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平9-121755

(22)出願日 平成9年(1997)4月24日

(71)出願人 000005957

三菱鉛筆株式会社

東京都品川区東大井5丁目23番37号

(72)発明者 白石 治人

神奈川県横浜市神奈川区入江2丁目5番12

号 三菱鉛筆株式会社横浜事業所内

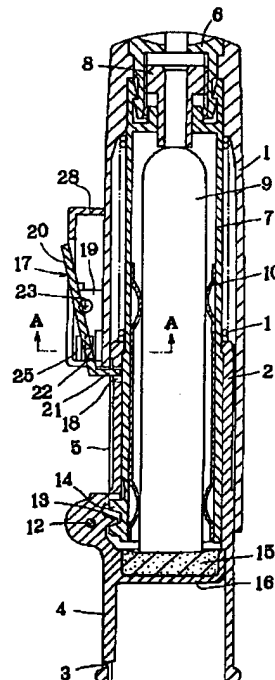
(74)代理人 弁理士 杉山 泰三

(54)【発明の名称】 印鑑ホルダー

(57)【要約】 (修正有)

【課題】 下動させることによって印面を露出させる外筒に対して意に反した外力が加わっても、その外筒の下動を阻止して印面の露出を防止できる印鑑ホルダーを提供する。

【解決手段】 中筒2の外側に外筒1を上下動自在に被せ、印鑑9を保持する内筒7を中筒2の内側に配し且つ外筒1と一体化して中筒2に対し上下動自在となし、中筒2の下端近傍の側面に開口した窓孔3を開閉する蓋4を中筒2の側面に回動自在に取付けて、その蓋4を外筒1及び内筒7の上下動に連動させて開閉自在となし、その蓋4の内面側に閉蓋状態で内筒7に装着した印鑑9の印面と対向して遮蔽するとともに開蓋状態で印面の下方を開放して中筒2の下端開口から印面を突出可能とする朱肉皿16を設け、又、閉蓋状態で中筒2に対する外筒1及び内筒7の下動を阻止するロック機構17を外筒1と中筒2の間に設けたことを特徴とする。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 中筒2の外側に外筒1を上下動自在に被せ、印鑑9を保持する内筒7を中筒2の内側に配し且つ外筒1と一体化して中筒2に対し上下動自在となし、中筒2の下端近傍の側面に開口した窓孔3を開閉する蓋4を中筒2の側面に回動自在に取付けて、その蓋4を外筒1及び内筒7の上下動に連動させて開閉自在となし、その蓋4の内面側に閉蓋状態で内筒7に装着した印鑑9の印面と対向して遮蔽するとともに開蓋状態で印面の下方を開放して中筒2の下端開口から印面を突出可能とする朱肉皿16を設け、又、閉蓋状態で中筒2に対する外筒1及び内筒7の下動を阻止するロック機構17を外筒1と中筒2の間に設けたことを特徴とする印鑑ホルダー。

【請求項2】 中筒2の側面にロック孔18を設け、そのロック孔18に嵌入し且つ脱出自在なロック爪21を有するロック釦20を外筒1の側面に回動自在に取付け、又、ロック爪21がロック孔18に嵌入した状態、及びロック爪21がロック孔18から脱出した状態で、それぞれロック釦20に設けた係止突起22が係合する係止溝26、25を有する係止板19を外筒1の側面に設けてロック機構17を構成した請求項1記載の印鑑ホルダー。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は印鑑ホルダーに関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来の印鑑ケースに収納した印鑑は、使用する際にケースから取り出して朱肉に印面を接触させていた。そのため、頻繁に使用する場合は、使用する度にその作業を繰り返す必要があるので極めて煩わしいという不満があった。

【0003】そこで、このような不満を解消するために、印鑑を使用する度にケースから取り出して朱肉に印面を接触させる面倒のない印鑑ホルダーが考案され、実開平7-15351号公報、実開平6-71145号公報、実開平6-36859号公報、実開平6-16061号公報、実開平6-17951号公報、実開平6-9964号公報等に開示されている。これらの印鑑ホルダーは、一般的に、ケース内に印鑑を上下方向に移動可能に保持し、又、保持した印鑑の下方に回転運動により開閉する蓋を配して、その蓋に印面が接触する朱肉を保持させ、ケースの外筒を下動させて蓋を開くことにより印鑑を下方へ移動可能として、ケースの下端開口から印鑑の印面を露出して捺印を可能とする構造になっている。

【0004】ところで、上記のような印鑑ホルダーのケースの下端開口にキャップをするのを忘れた状態で鞆等に入れて携帯した場合、例えば満員電車などで鞆等が圧迫された際に、その鞆等の中の印鑑ホルダーにおける外筒に外力が加わって印鑑の印面が意に反して露出し、鞆

等と一緒に入れている書類等に朱肉が付いて汚してしまうという問題があった。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】本発明は上記の問題を解決すること、すなわち、下動させることによって印面を露出させる外筒に対して意に反した外力が加わっても、その外筒の下動を阻止して印面の露出を防止できる印鑑ホルダーの提供を課題とする。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】本発明の印鑑ホルダーは上記課題を解決するためのものであって、中筒2の外側に外筒1を上下動自在に被せ、印鑑9を保持する内筒7を中筒2の内側に配し且つ外筒1と一体化して中筒2に対し上下動自在となし、中筒2の下端近傍の側面に開口した窓孔3を開閉する蓋4を中筒2の側面に回動自在に取付けて、その蓋4を外筒1及び内筒7の上下動に連動させて開閉自在となし、その蓋4の内面側に閉蓋状態で内筒7に装着した印鑑9の印面と対向して遮蔽するとともに開蓋状態で印面の下方を開放して中筒2の下端開口から印面を突出可能とする朱肉皿16を設け、又、閉蓋状態で中筒2に対する外筒1及び内筒7の下動を阻止するロック機構17を外筒1と中筒2の間に設けたことを特徴とするものである。

【0007】なお、上記のロック機構17は、中筒2の側面にロック孔18を設け、そのロック孔18に嵌入し且つ脱出自在なロック爪21を有するロック釦20を外筒1の側面に回動自在に取付け、又、ロック爪21がロック孔18に嵌入した状態、及びロック爪21がロック孔18から脱出した状態で、それぞれロック釦20に設けた係止突起22が係合する係止溝26、25を有する係止板19を外筒1の側面に設けて構成することができる。

## 【0008】

【実施例】以下、本発明の実施例を図面に基づき説明する。まず、図1は捺印しない状態を示したものである。この図1において、符号1が外筒であり、この外筒1は中筒2の上部外周を覆って、中筒2に対し上下動自在になっている。中筒2は下端を開口し、下端近傍の側面に窓孔3を穿設している。この窓孔3は蓋4によって開閉自在となっていて、その蓋4は中筒2の側面部に回動自在に取付けられている。また、外筒1と中筒2の側面部にはロック機構17を設けている。なお、外筒1の下端側面部には、外筒1が下動したときに蓋4の逃げ場所となる切欠部5を設けている。また、中筒2の下端開口にはキャップ（図示せず）が着脱自在となっている。

【0009】次に、図3に示すように、外筒1の上端部に調節ネジ6を取付けるとともに、外筒1の内部に内筒7を收容して、その内筒7の上端部を調節ネジ6に係止している。また、調節ネジ6の内部に可動コマ8を螺着状態で收容し、その可動コマ8は内筒7の内部にその下

端部を貫通させている。なお、内筒7に対する可動コマ8の貫通部は断面が多角形で、内筒7に対し可動コマ8は回転が不能となっている。したがって、調節ネジ6を回転させると可動コマ8はネジ送りされて上下動する。

【0010】印鑑9は印面を下向きにして内筒7の内部に挿入され、内筒7の内部に取付けた板バネ10に挟まれて固定する。印鑑9の頭部には上記可動コマ8の下端部を接触させる。したがって、調節ネジ6を一方へ回転させると可動コマ8を介して印鑑9を押し下げることができる。これにより、印鑑9の印面の位置を調整することができる。

【0011】内筒7の下半部は中筒2の内部に挿入していて、内筒7は中筒2に対し上下方向へ移動可能である。中筒2の上端と外筒1の内面段差部との間に介装されたコイルばね11によって外筒1は上方へ付勢されていて、通常は図1及び図3に示すように外筒1は中筒2に対して上昇している。内筒7も調節ネジ6を介して外筒1と一体化しているので、やはりコイルばね11によって上方へ付勢されていて、通常は中筒2に対し上昇している。

【0012】中筒2の窓孔3を開閉するように取付けられた蓋4は、その回転中心部12の内面側にピニオン状の歯13を設けている。また、内筒7は下端側面部にラック状の歯14を設けて、その歯14を蓋4の歯13に噛み合せている。外筒1を押し下げて内筒7を一体的に下降させると、その内筒7の歯14が蓋4の歯13を押すので蓋4は外側へ回転して、図5に示すように窓孔3を開くことになる。外筒1に対する押し下げ操作を解除すると、コイルばね11によって外筒1及び内筒7は自動的に上昇し、そのとき、内筒7の歯14は蓋4の歯13を逆方向へ押すので、蓋4は内側へ回転して、図1及び図3に示すように窓孔3を閉じることになる。

【0013】朱肉パッド15を保持した朱肉皿16は蓋4の内面側に略垂直に設けられ、蓋4が中筒2の窓孔3を閉じている状態では、図3に示すように印鑑9の下方を遮蔽して朱肉パッド15を印鑑9の印面に接触させている。上記のように外筒1を押し下げて内筒7を下降させると、内筒7の歯14が蓋4の歯13に当たって押すことにより、蓋4は外側へ回転して窓孔3を開くことになるが、このとき、朱肉皿16は窓孔3から中筒2の外側へ抜け出て、図5に示すように中筒2の側面に対し略平行な姿勢となり、印鑑9の下方を開放することになる。したがって、外筒1の押し下げ操作を続ければ、印鑑9の印面が中筒2の下端開口から突出して捺印が可能となる。

【0014】上記のように外筒1と中筒2の側面部にはロック機構17を設けているが、このロック機構17は、中筒2の側面部に設けたロック孔18と、図2に示すように外筒1の側面部に立設された一対の係止板19と、その係止板19に対し回動自在に取付けられるロ

ック釦20とによって構成されている。ロック釦20は下端部に傾斜することによってロック孔18に対し嵌入し且つ脱出自在なロック爪21を設け、又、ロック爪21の少し上方位置の側縁部に係止突起22を設けている。なお、ロック釦20は略中間位置の側縁部に突設した支軸部23を係止板19に穿設した軸受孔24に嵌入することによって係止板19に対し回動自在となっていて、その上下両端部が内外方向へ交互に揺動自在となっている。係止板19には、ロック爪21がロック孔18に嵌入している状態、及びロック爪21がロック孔18から脱出している状態で、それぞれ、図4及び図6に示すように上記の係止突起22が係合する係止溝26、25を設けている。なお、係止板19において係止溝25、26を設けた部位はスリット27によって弾性変形しやすくなっている。また、係止板19は図2に示すようなコ字状のカバー28によって隠蔽されている。

【0015】捺印しない場合、すなわち鞆等に入れて携帯する場合は、ロック釦20の下端部を内側へ押して、図1及び図3に示すように、ロック爪21を中筒2のロック孔18に嵌入させる。このとき、ロック釦20の係止突起22が図4に示すように係止板19の係止溝26に係合して、ロック爪21がロック孔18に嵌入した状態を固定する。この状態では外筒1がロック釦20により下動を阻止されるので、外筒1が意に反して下動することがなく印面の不本意な露出を防止することができる。

【0016】捺印する場合は、ロック釦20の上端部を内側へ押して、ロック孔18からロック爪21を脱出させればよい。このとき、ロック釦20の係止突起22は係止板19の弾性変形により係止溝26から抜け出て、図6に示すように、別の係止溝25に係合してロック釦20を固定する。この状態では外筒1の下動が可能であり、上記のように外筒1と内筒7を一体的に下動させて、図5に示すように印面を露出させることにより捺印が可能となる。

【0017】

【発明の効果】本発明の印鑑ホルダーは上記の通りであり、捺印しない場合はロック機構17によって外筒1を下動できない状態とすることができるので、意に反した外筒1の下動による印面の露出を防止することができる。したがって、鞆等に入れて携帯した場合に、印面が露出して書類等に朱肉が付着して汚れる等の不都合を防止することができる。また、ロック機構17を請求項2記載のごとく構成することによって、ロック機構17の構造がシンプルとなり、かつ、操作しやすいという利点が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】捺印しない状態の斜視図である。

【図2】ロック機構の分解斜視図である。

【図3】捺印しない状態の全体断面図である。

5

6

【図4】図3のA-A線における部分断面図である。

【図5】捺印する状態の全体断面図である。

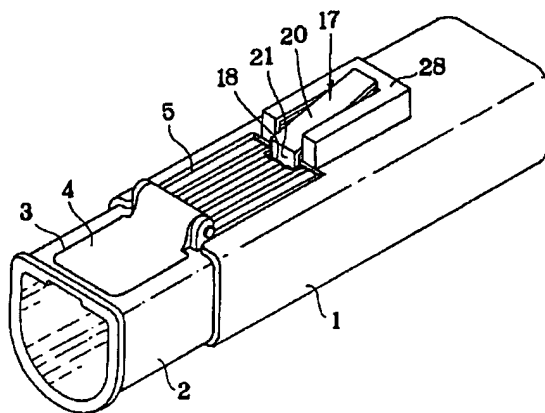
【図6】図5のB-B線における部分断面図である。

【符号の説明】

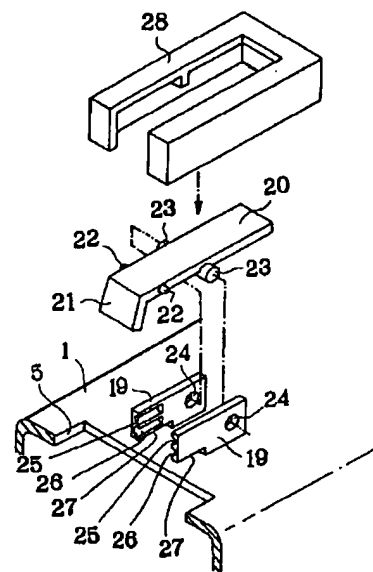
- 1 外筒
- 2 中筒
- 3 窓孔
- 4 蓋
- 5 切欠部
- 6 調節ネジ
- 7 内筒
- 8 可動コマ
- 9 印鑑
- 10 板バネ
- 11 コイルばね
- 12 回転中心部

- 13 歯
- 14 歯
- 15 朱肉パッド
- 16 朱肉皿
- 17 ロック機構
- 18 ロック孔
- 19 係止板
- 20 ロック釘
- 21 ロック爪
- 22 係止突起
- 23 支軸部
- 24 軸受孔
- 25 係止溝
- 26 係止溝
- 27 スリット
- 28 カバー

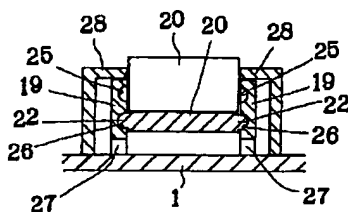
【図1】



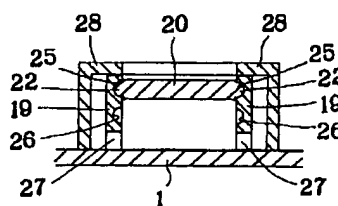
【図2】



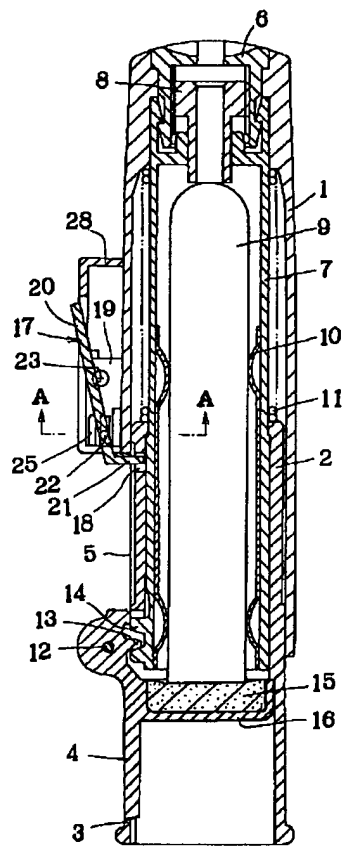
【図4】



【図6】



【図3】



【図5】

